

平成28年度事業報告

1. 新宿区立障害者福祉センター

職員体制 常勤職員 26名 非常勤職員 13名

1. 機能訓練（機能訓練事業部担当）

登録者及び利用者総数

※3月末現在

項目	登録者数			新規・終了数		のべ利用者数	1日当たりの利用者数
	男	女	計	新規	終了		
利用者数	50名	28名	78名	15名	4名	2,614名	12.4名

項目	医師診察	日常体調確認	救急看護	内服等	経口摂取指導	安静臥床
実績数(件)	88	2,955	1	1,275	0	14
項目	トイレケア	看護訪問	面接 (SS利用 相談含)	グループ 訓練援助	館外訓練 随伴	合計
実績数(件)	224	5	506	21	51	5,148

2. 多機能型事業（あすなろ作業所及びトライ工房）

活動実績

あすなろ作業所活動内訳

新宿トライ工房活動内訳

作業内容	日数 (日)	人数 (名)	参加人数 (名/日) 出席率
①創作活動等	34	76	2.2
②授産活動等	730	2,189	2.9
③自己啓発等	490	1,361	2.7
④就労体験等	261	318	1.2
⑤社会参加活動等	53	222	4.1
⑥健康管理等	154	199	1.2
⑦緑化事業	235	495	2.1
⑧新規取り組み	リサイクル事業・		

作業内容	日数 (日)	人数 (名)	参加人数 (名/日) 出席率
①自主製品作成等	122	1028	8.4
②学習等	356	1362	3.8
③バリアフリー、 車椅子体験等	35	110	3.1
④健康管理・イベント等	264	845	3.2
⑤就労体験等	100	128	1.2
⑥緑化事業	226	417	1.8
⑦拡充取り組み	バリアフリー 教育の充実		

3. 視覚障害者通所訓練（視覚障害者通所訓練事業部担当）

利用者数

患者内訳		施術師のべ 出勤人数	合計		1日当たりの利用者数
障害者	新患者		実施日数	利用者数	
173名	15名	573名	288日	573名	1.98名

4. 手話講習会

受講者数

コース名	定員	応募者数	受講者数	のべ参加者数	修了者数	修了率
初級	60	65	59	1,223	30	50.8%
中級	40	50	43	1,377	36	83.7%
上級	20	20	15	387	9	60.0%
通訳	10	9	6	235	6	100%
補講	10	9	8	133	8	100%

5. 計画相談及び基本相談支援事業

利用者数 ○契約者数 39名 (平成29年3月31日現在)

6. 講座・講習会事業

講座実績

開講講座	定員 (全講座計)	受講者数 (全講座計)	実施回数 (全講座計)	延べ人数 (全講座計)	1回あたりの参加者数 (全講座計)
45	556	552	435	3,717	420

講演会・行事

実施日	テーマ・講師	参加者
10月25日	センター祭	2,200名
12月5日	福祉公演会「音楽がくれた希望」ノブタクコンサート	136名
3月30日	スマートフォン体験講習会	10名
3月31日	タブレット型パソコン体験講習会	12名

7. 高次脳機能障害者支援事業（障害者在宅支援事業部担当）

利用者登録者10名（参加延べ者数375人）

8. 入浴サービス

事業実績

	利用者数	実施日数	延べ利用者数	1日当たり
入浴サービス	9名（男性8名・女性1名）	236日	328名	1.38名

9. 給食サービス

事業実績

	利用者数	実施日数	延べ利用者数	1日当たり
給食サービス	10名（全て男性、内1名新規）	203日	514名	2.53名

10. 短期入所事業（短期入所及び日中ショート）

利用実績

契約者数	延べ利用者数			利用日数	緊急利用日数	日中一時支援利用者数
	男	女	合計			
85名 (新規12名、 終了72名)	182名	263名	445名	800日	14日	10名 (のべ182日)

(基準日平成29年3月31日)

11. 障害者相談支援事業

相談実績

①相談者

	当事者	家族	関係機関	その他	合計
一般相談	815	46	24	7	892
ピアカウンセリング	235	280	11	8	534

②障害の種類

	肢体	視覚	言語聴覚	内部	重心	知的	精神	発達	高次能	その他
一般相談	233	10	1	2	2	23	602	4	7	8
ピアカウンセリング	18	169	26	0	0	79	128	82	32	0

③相談内容（一般相談）

一般相談		ピア相談
相談項目	件数	件数
情報提供、福祉サービス利用援助	71	174
障害や病状の理解に関する支援	2	46
健康・医療に関する支援	11	32
不安の解消・情緒安定に関する支援	754	45
保育・教育・療育に関する支援	0	75
家族・人間関係に関する支援	17	68
家計・経済（年金・手当等）に関する支援	8	22
生活（金銭・家事・育児等）に関する支援	4	45
就労に関する支援	8	13
社会参加・余暇活動等に関する支援	10	5
権利擁護に関する支援	0	7
その他	7	2
合計	892	534

●講演会

実施日	テーマ	参加者
9月17日	障害者差別解消法とは	42名

講師：特定非営利活動法人DPI（障害者インターナショナル）日本会議事務局 議長補佐 崔 栄繁 氏

実施日	テーマ	参加者
3月25日	発達障害の子どもを持つ母3人が語る「私たちの子育て」～就労に向けて～	35名

講師：新宿スイッチ 代表 菊田史子氏、佐藤千春氏、根本綾子氏

●情報誌「mo i」の発行 6月、9月、12月、3月の4回（1,600部）発行。

12. 居住サポート事業

利用実績：一般相談を含む

13. 社会資源活用促進事業

利用実績

実施内容	対象／実施場所 他	詳細
ボランティア	学生・社会人等一般	35名
	日本ビュレツト・パッカド株式会社	8名
介護等体験	山吹高校	5名
	開進第二中学校	2名
	富士見中学校	4名
	牛込第二中学校	9名
	早稲田小学校	8名
	落合中学校	5名
	桐朋学園大学	1名
作業療法士実習	帝京平成大学	1名
見学	首都医校	15名
	早稲田大学	6名
	その他大学生	1名
	一般	2名
避難所体験	主催：障害者福祉センター	3月11日（土）～3月12日（日） 午後1時から障害理解促進のためのワークショップ、 午後5時から宿泊体験を実施。 WS参加者 84名 宿泊参加者 57名
「ふしぎな友達 プロジェクト」	主催：障害者福祉センター 協力：プロダンサー ひびきみか DEEP UNIT	11月12日（土） プロ、知的障害者、その他のダンスサークルの活動披露と、出演者・観客一体となってダンスのセッションを行う企画。 時間を共有し、相互理解を深めることができた。 参加者112名
サロンプロジェクト 「手話カフェ はこねやま」	主催：障害者福祉センター	12月8日（木） スターボックス、宝塚大学、新宿区聴覚障害者協会協力で実施。160名の来場者。手話への関心が高い。

14. 管理業務

(1) インターンシップ（職場実習）の受入れ

重点的な取り組み	達成度・成果
障害者の職業訓練や雇用促進のため、インターンシップ制度を導入する。	27年度に引き続き、関係機関にインターンシップ生の紹介を依頼していたが、今年度は障害者センター業務にマッチングする利用者が見つからず、受入れはなかった。しかしながら、障害者センターでは喫茶ふれんどでの調理・配膳係、1F 受付、地下機械室警備員などの障害者雇用を積極的に行っているため、そちらを継続しつつ、インターンシップの受入れも促進していきたい。

・避難訓練他 防災関連

●福祉避難所体験

3月11日（土）～12日（日）にかけ、福祉避難所を想定した実験を実施。

参加者：ワークショップ84名 宿泊体験57名

●備蓄物資

備蓄飲料・食料一覧

物品名	数量	保存期限	
アルファ化米（白米）	480	H30.4.30	
ミネラルウォーター	480		※1、※2
ビスケット	480	H32.10	
乾パン	480		※2

1日の収容予想人数（160人）×3日分の数量 B1F防災備蓄倉庫の一部を借用して保管中
 ※1 水は商品単位での員数分確保のため、現備蓄量では1日分の必要量しか保存できていない。
 避難所体験において、食料に関しても再考が必要なことが判明、検討を要する。

備蓄備品

備品名	数量	保存期限	備考
簡易トイレ	160		
トイレトペーパー	16		
担架ベッド	3		
ガソリン缶詰	8	H30.11.23	
灯油缶詰	10	H30.11.23	
ボディータオル	160		※2
乾電池（単一）	64		
発電機	1		
赤外線暖房機	1		

B1F防災備蓄倉庫の一部を借用して保管中
 ※2の備蓄品については平成29年4月25日現在、発注中。

④その他備品

物品名	数量	設置場所	備考
担架	1	1F受付	
車いす	4 (1 3台/2F1台)	1F受付、 2F PC室、創作活動室	倉庫に予備あり
AED	1	2F事務室	
アンビューバック	1	2F事務室	
館内各所に保管			

2. 新宿区立あゆみの家

1. 運営の基本方針について

平成28年度の重点的取り組みは、3点を掲げました。

① 世代や適性に応じた個別支援への取り組みを進めます。
② 職員の専門性とコミュニケーション能力の向上を図ります。
③ 第1期指定期間の総括を行い、法人らしい“特色ある施設運営”について提案書を作成します。

① 世代や適性に応じた個別支援への取り組み

世代や趣味・趣向に着目した小グループ活動の実施。ミュージシャンやエンタメ系のNPO、企業の協力を得て社会参加プログラムの充実を図る。(音楽ライブ、区内のカフェ店の出張カフェ、ヘアカットサービス、移動式水族館や音大学生による演奏会等)

② 職員の専門性とコミュニケーション能力の向上を図る

「介護職員のための医療的ケア研修(3号研修)」を実施。基礎講座は生活支援員全員が受講、実技や演習の実務研修は資格取得を目指した職員が受講。「感染症予防の研修」を実施。医師や看護師等、外部講師を招いた所内研修2回と職員会議を活用した「標準予防策」の勉強会を実施。

③ 法人らしい“特色ある施設運営”の提案

「あゆみの家のあり方検討会」の発足。重度化への対応や定員問題、感染症対策等をテーマに現状の検証と将来的なあり方に関する検討を進める。他施設の視察や保護者との合同研究会も2回実施。報告書を作成し、職員、保護者、所管課、法人理事に配布。第2期指定期間の事業提案書に反映。

2. 生活介護事業の実施報告

利用者と通所率

・平成29年3月末現在の利用者数：40名(定員45名)と障害程度区分

	区分6	区分5	区分4	区分3
27年度	28名(73%)	4名(11%)	5名(16%)	0
28年度	32名(80%)	3名(7.5%)	5名(12.5%)	0

・利用者の通所率(年間平均)

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
84%	83%	88%	88%	84%	88%
区直営	法人運営				

・欠席者の理由（延人数）

欠席理由	欠席者の延人数	備考
病気、発作、通院、入院	813名（57.7%）	
介護者や家庭の事情	264名（18.7%）	介護者の病気、冠婚葬祭、旅行等
他施設のサービス利用	209名（14.8%）	言語訓練、短期入所、プール等
その他	121名（8.5%）	

年間行事

4月：入所式、始所式（新規入所者3名）

6月：所内宿泊（新規入所者3名）

「第7回落合つながるカフェ」～福祉避難所～

7月：プロの美容師によるヘアカットサービス（協力：山野愛子美容室）

あゆみカフェ（協力：新宿区社会福祉協議会、株式会社 スターバックス）

9月～10月：秋季合宿（利用者を2グループに分けて2回実施）

11月：第39回あゆみ祭

12月：障害者作品展、障害者施設共同バザール

1月：成人を祝う会

3. 入浴、給食、送迎サービス

入浴サービス

	27年度	28年度
入浴サービスの年間延べ人数	937名	977名
入浴サービスの月平均延べ人数	78名	81名

給食サービス

食形態調査や食物アレルギー調査実施。利用者の摂食状態に応じて普通食、きざみ食、みじん食、ペースト食、ムース食の5種類の食形態で提供。

	27年度	28年度
給食サービスの年間延べ人数	6,975名	7,413名
給食サービスの月平均延べ人数	581名	617名

4. 短期入所事業及び日中ショートステイ事業

利用定員及び利用時間 利用者登録とサービス提供数の推移

- ・短期入所の年間宿泊数の推移：214泊 ※参考：平成26年度244泊、27年度216泊

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計	16	19	10	23	20	14	20	14	19	17	22	20

- ・日中ショートの利用者数：延べ人数106名 ※参考：平成26年度延97名、27年度延120名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用数	13	7	10	13	17	5	5	9	6	6	6	9

5. 土曜ケアサポート事業

- ・利用登録者 ※参考：27年度登録者人数は49名（うち医療的ケア対象者は4名）

	あゆみの家の登録者	あゆみの家以外の登録	合計	医療的ケア対象者
合計	29名	25名	54名	5名（再掲）

- ・利用状況の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
実施回数	4回	4回	4回	5回	3回	3回	4回
利用人数	107名	107名	94名	128名	82名	81名	102名
1回あたり	27名	27名	24名	26名	27名	27名	26名
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
実施回数	3回	4回	4回	4回	3回	45回	
利用人数	79名	102名	104名	102名	80名	1,168名	
1回あたり	26名	26名	26名	26名	27名	26名	

6. 利用者への個別支援について

- (1) 個別支援計画の策定とモニタリング (2) 健康管理及び衛生管理 (3) 医療的ケア

- ・利用登録者数：7名 ・生活介護事業医療的ケアの種類と提供件数

内容		登録者	年間 提供数	月平均	過去実績（月平均）		
				28年度	27年度	26年度	25年度
吸引	口腔	6名	1,871	155	130	176	193
	鼻腔	5名	1,213	101	117	147	139
	気管	3名	1,620	135	304	344	497
経管 栄養	経鼻	0名	0	0	8	13	17
	胃ろう	4名	575	47	18	67	70
吸入		6名	1,141	95	81	81	85
気管の衛生管理		8名	292	24	26	26	31
導尿		2名	245	20	20	21	21
人工呼吸器の管理		2名	289	24	12	13	14
酸素の管理		2名	207	17	17	7	8
呼吸リハビリ		1名	0	0	42	35	35

- ・緊急時薬の使用状況 ※参考：26年度の使用回数46回、27年度の使用回数28回。

緊急時薬を預かっている利用者	12名
緊急時薬の使用回数	21回

7. 計画相談事業（サービス等利用計画の作成）

	事業実績
利用契約	あゆみの家の利用者の契約：43名中39名と契約（H29.4からの新規利用者3名含）

	あゆみの家以外の方の契約： 6名
計画の作成	28年度の新規契約件数： 7名
モニタリング	3月末モニタリング実施済み件数： 61件

8. 利用者主体の施設運営を進める取り組み

相談受付及び苦情対応、ヒヤリ・ハット及び事故報告

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	合計
苦情窓口の相談	0	0	0	0	0
所長への直行便	0	0	0	0	0
事故報告	2	0	0	0	2
ヒヤリ・ハット	3	3	5	5	16
ヒヤリハット：服薬ミス（3件）持参メガネ紛失、転倒（車いすなど）他害（2件）私物破損					

●利用者満足度調査の実施

- ・実施時期：平成29年2月
- ・回答率：利用者・保護者34名に調査票を配布し、調査票の回収数は26名（回収率77%）
- ・調査内容：20項目の質問と自由記述。評価は、「とても満足」「どちらかといえば満足」「どちらかといえば不満」「とても不満」「非該当またはわからない」の5段階評価で行った。

・調査結果の概要

○「とても満足」の回答が最も多かった項目

- 1位：給食サービスによる食事提供（回答者の58%）
- 2位：通所バスによる送迎サービス（回答者の42%）
- 3位：職員の説明や報告のわかりやすさ、丁寧さ（回答者の42%）

○「とても不満」及び「どちらかといえば不満」の回答が最も多かった項目

- 1位：施設の使い勝手（グループの活動室の広さや機能）（回答者の23%）
- 2位：年齢や適性、趣向に配慮した個別支援プログラム（回答者の16%）
- 3位：秋季合宿（回答者の15%）

※（とても不満＋どちらかといえば不満）という回答はゼロで、このように不満を感じている人が全くいなかった項目は、20項目中で12ありました。

○将来的な利用意向や在宅生活の満足度についても12項目にわたり調査した。

「とてもあてはまる」が最も多かった項目

- 1位：あゆみの家にずっと通わせたいと思う（回答者の77%） ※昨年は77%
- 2位：あゆみの家は区立施設だから将来にわたり安心だと思う（回答者の35%） 昨年は27%
- 3位：親亡き後に本人の支援を誰が担うのか考えるととても不安（回答者の31%） 昨年は27%

●あゆみの家のあり方検討会」について

「あゆみの家あり方検討会」を立ち上げて、運営についての諸課題施設運営の方向性を1年をかけ検討。

- ・委員：管理職2名、リーダー職4名、専門職2名、一般職2名
- ・内容
 - ①あり方検討会発足の背景について ～現状把握と課題の抽出～
 - ②職員の意見の集約 ～あゆみの家のここが好き、嫌いアンケート～
 - ③保護者と生活介護事業所の職員による合同研究会

- ・感染症保菌者の受入れについて
 - ・障害の重度化への対応をどうするか
 - ・行動障害や自傷、他害行為の多い利用者への対応をどうするか
- ④あゆみの家の保護者と職員の意見交換会 『あゆみの家のこれからを考える』
- ・障害の重度化への対応をどうするか ～療育センター機能、中間施設について～
 - ・あゆみの家に“本来の利用者”はいるのか？ ～定員問題について～
- ・結論：年度末に検討会議論の報告書を発刊。職員、保護者全員と障害者福祉課、法人の理事に配布。

9. 地域、ボランティア、行政との協力と連携の取り組み

(1) 地域における障害者理解の促進の取り組み

地域における障害者理解の促進のために次の3つの取り組みに力を入れた。

- ①地域で暮らす障害者や施設利用者が安心して暮らせるように、地域住民や関係者の相互理解を深めたい」という趣旨であゆみの家を会場に『落合つながるカフェ』を1回開催。カフェには地域の福祉施設の職員や民生委員、障害者団体、あゆみの家保護者の方々が多数参加して、講演会やワークショップを行い“顔の見える関係”作りを進める。
- ②広報紙「あゆみだより」を700部、2回発行。関係機関や地域の諸団体に配布。保護者や購読者から毎回「とても読みやすい」、「内容が充実している」等、好評を博している。
- ③行政や地域福祉関係者の施設見学や福祉系専門学校、大学の研修生の受入れを積極的に行う。

(2) ボランティアの育成

ボランティアの受入や育成は、日中活動のボランティアと行事ボランティアがあり、いずれも人数や回数など、活動の継続性や定着率が向上。特に日中活動ボランティアでは、大学生の福祉系サークルの継続的活動が強化された。あゆみ祭のボランティアは、リピーターが多く登録者数も増加。

(3) 新宿区との連携

区が主催する相談事業者連絡会、施設連絡会や進路対策連絡会、虐待防止の研修会、福祉施設職員相互研修等に積極的に参加して関係強化を図る。その結果、短期入所事業の受付方法の改善や特別支援学校の実習受け入れなど進路対策もスムーズに進んだ。

28年度は屋上の防水シート工事や全館のスプリンクラー設置工事を施設を休所しない、利用者サービスに支障が生じないように、工程表や代替スペースの確保などに工夫し所管課、工事事業者ときめ細かな打ち合わせ、調整をして実施。

(4) 避難訓練と大災害時対策について

火災や震災の避難訓練は、通所バスや給食、清掃等の再委託事業者も参加して年6回実施しました。備蓄品や利用者保護の緊急対応マニュアルの整備は既に行っています。今後の課題としては、災害時対応マニュアルが実際の場面で機能するように福祉避難所の立ち上げ訓練等を通じて実効性を高めることです。

10. 職員配置、人材育成、労働環境

○職員配置

	職 種	人数	常勤	非常勤	備考
運営係・総務、庶務 ・施設管理	施設長（所長）	1	1	0	副施設長は、サービス管理責任者を兼務
	総 務	3	2	1	

・経理	サービス管理責任者	1	1	0	他に嘱託医2名、 生活支援のアルバイト2名を配置
支援係・生活介護 ・短期入所 ・日中ショート ・土曜ケア ・相談支援	生活支援員	36	30	6	
	看護師	4	4	0	
	相談支援員	2	1	1	
	理学療法士	1	0	1	
	作業療法士	1	0	1	
	バス添乗員	6	0	6	
	合計	55	39	16	

○人材育成と職員研修

	研修内容	時期	対象者	受講者数
所外 実務 研修	重度・重症者の摂食指導	4、2月	生活支援員	2名
	重度・重症者の医療と生活	5、12月	生活支援員	3名
	肢体不自由児者の日常ケア見直し	10月	相談支援員	9名
	強度行動障害者支援研修	10月	生活支援員	1名
	新宿区口腔ケア	11月	生活支援員	10名
	意思決定支援研修	7、11月	生活支援員	3名
	地域生活移行支援セミナー	12月	生活支援員	3名
	救命救急及びAED講習	1月	生活支援員	3名
	個別支援計画	1月	生活支援員	4名
	救命救急及びAED講習	1月	生活支援員	3名
	スヌーズレン基礎研修	2月	生活支援員	2名
所外 職層 研修	ISO推進研修	4、12月	管理者	2名
	新宿区障害者施設職員の相互研修	7月	生活支援員	12名
	福祉職員中堅研修	10月	生活支援員	6名
	社会福祉法人の施設運営と財務研修	1月	管理職及び総務・経理	2名
	公平採用及び人権擁護研修	6、2月	管理職	1名
所内 研修	成年後見制度	5月	生活支援員及び看護師	20名
	てんかんの基礎と座薬挿入の実技	6月	生活支援員及び看護師	15名
	あゆみの家の医療的ケア	6月	生活支援員及び看護師	25名
	救命救急法実技	8月	生活支援員及び看護師	18名
	防犯実習	9月	職員	17名
	AED操作実技研修	8月	生活支援員及び看護師	3名
	障害者の歴史	3月	生活支援員	17名
	介護職員のための医療的ケア基礎 (感染症、痰の吸引、経管栄養、 吸引と経管の手技)	7～3月	生活支援員及び看護師	20名

3. 福祉ホーム「あじさいホーム」

平成28年度は以下の方針を掲げ、事業を実施した。

【運営方針】

入居者一人ひとりに必要な福祉、医療のサービスを継続的に提供し、生活全般にわたる支援を行い、笑顔絶えない生活環境を目指します。

- ・入居者の高齢化、障害の重度化に伴うサービスを適正に判断し、提供していきます。
- ・自らが選択する生活を営むための情報を提供し、生活全般にわたる支援を行います。
- ・入居者同士が関わる機会を増やし、アットホームな関係構築を支援します。

●事業概要

事業名 : あじさいホーム
事業種別 : 福祉ホーム
定員 : 10名
事業所所在地 : 東京都新宿区西早稲田1-11-10

1.実施報告

○運営費

障害者総合支援法の地域生活支援事業に該当するため、補助金額、年額15,255,000円により運営した。

職員配置 : 職員配置は以下のとおり。

職種	常勤(人)	非常勤(人)	合計員数	資格等
施設長	1		1	介護福祉士
生活支援員	2.5		2.5	
生活支援員		数名	常勤換算1以上	
事務	1(兼務)		1	兼務

○借入金の償還

建設資金として独立行政法人福祉医療機構より36,800千円、東京厚生信用組合より46,279千円の貸付があり、償還計画表に基づいて、入居者の家賃収入と寄付により20年間の償還を行う。独立行政法人福祉医療機構に、貸付元金1,840千円、利息138,634円、利子については、東京都(東京都福祉保健財団)によって利子補給された。東京厚生信用組合に、元金2,831千円、利子389千円を平成28年度で償還した。

○ホームヘルパー制度の活用

入居者10名の内、現在3名の利用者が65歳を超え、介護保険制度の利用。介護保険における訪問介護と総合支援法による居宅介護の併給を受けた。入居者は、障害者自立支援法の障害者福祉サービスの居宅介護と地域生活支援事業の移動支援並びに、上記の3名は介護保険制度の訪問介護を利用して、ホームヘルパーの支援により、日常生活を送った。

入居者に一体的に支援ができるよう他のグループホームや介護派遣事業所も含め、勉強会や講習会を実施した。

	日程	テーマ	参加人数
第1回	5月25日	緊急対応(AED~119番)について @消防署職員より	29名
第2回	6月15日	医療講習会 日常のケアを見直そう 小児科Dr 栗原亜紀氏	28名

第3回	7月20日	障害理解 臨床発達心理師 秋田彰子氏	22名
第4回	10月18日	コミュニケーション技術向上 応用行動分析 @帝京科学大学 田口助教授	19名
第5回	10月12日	防災体験について	12名
第6回	① 2月22日 a 3月23日 b 3月31日	虐待防止について メンタルヘルス @東京大学 熊谷准教授 ※a、bの日程はビデオ学習会	①27名 a 12名 b 9名

※あじさい、ひまわり、ぽけっと、からふる、ぱれっと、ルクール等共同で開催

○健康管理

月2回のフジモト新宿クリニックの訪問医療や三浦歯科クリニックの訪問歯科を活用して定期的な健康管理に努めた。医療的ケアが必要な入居者は、新宿区医療ケア体制支援事業を通じて、訪問看護ステーションから看護師が派遣され、日常的に医療的ケアを実施できる体制を整備した。介助職員に対しても医療的ケア等の知識、技術を習得する場を提供し、質の高いケアが提供できるように努めた。また、主治医や訪問看護ステーション、通所先医療職員との連携を強化し、バイタルチェックや日常生活の中での変化について報告し、病気の早期発見や日々の体調管理に努めた。また、急な体調不良等により、入院した入居者も出てきているため、医療との連携に努めている。

○入居者運営委員会・父母懇談会の開催

	回数	内容
入居者運営委員会	12	日常生活に関連するルール決めなどの議案 イベント（日帰りレク・料理会・クリスマス会、外食会）
父母懇談会	10	・生活の様子の報告・イベント報告・個別相談や面談など

○防災訓練

入居者の安全を確保するため、所轄消防署の指導監督の下、あじさいホームの消防計画を策定し、それに基づいて年2回の防災訓練、地域の防災訓練への参加、消防署員を招いてのAED講習会を開催（①平成28年5月25日実施、AED講習会。介助者16名参加 ②平成28年10月12日、池袋防災館見学、介助者12名参加 ③平成28年11月13日実施、地域防災訓練、入居者1名、介助者1名参加）を行い、災害・緊急・救急時に備えた。28年度新たに自動火災通報器が導入され、使用方法の確認含め避難訓練時の操作確認等を業者と連携し、把握する事に努めた。併せて、ハード面の理解（使用方法等）向上を職員間で共有するよう心掛けた。救急対応の強化と緊急時の連絡体制・介助者の動きの強化に努めた。

○余暇の充実

	回数	内容
イベント	3	・ホーム内での料理会・クリスマス会・ご家族との食事会
年間外出	2	数名に別れてのグループ外出
地域行事への参加	3	・町会さくら祭り・秋祭り・地区防災訓練

4・福祉ホーム「ひまわりホーム」

平成28年度は、以下の方針を掲げ、事業を実施した。

【運営方針】

入居者一人ひとりが毎日を健康に過ごし、通所先に元気に集い、社会参加できる喜びを常に持ち続けられるよう生活全般にわたって支援します。

- ・一人ひとりの入居者が、健康で文化的な生活を送る事が出来るよう支援します。
- ・恒常的な支援の中でも日々の変化を見逃さず、一人一人の可能性を引き出していく支援を心掛けます。
- ・継続的に日中活動に参加できるよう、通所先や医療機関と連携を強化します。

●事業概要

事業名 : ひまわりホーム
実施事業 : 地域生活支援事業 福祉ホーム
定員 : 10名
事業所所在地 : 東京都新宿区西新宿4-21-19

1. 実施報告

○概況

平成28年度は、入居者状況の変更があった。平成28年10月1日に女性入居者が新規入居した。新規入居にあたって、スムーズな生活移行が行えるよう、ご家族、肢体不自由児父母の会と密に連絡をとる事に努めた。体験入居の実施、現行の介助体制の説明等を経て本人の精神的な動揺、大きな体調変化もなくスムーズに移行できた。また、昨年度(28年3月)に胃ろう造設オペを行った利用者がある。訪問看護師と連携をし、日々の健康管理に努めた。担当職員が喀痰吸引3号研修の受講、実地試験を行い専門的知識の取得・向上に努めた。

2. 運営費

障害者自立支援法の地域生活支援事業福祉ホームの補助金、年額15,255,000円により運営した。

職員配置 : 職員配置は以下のとおり。

職種	常勤(人)	非常勤(人)	合計員数	資格等
施設長	1		1	介護福祉士
生活支援員	2.5		2.5	
生活支援員		10名	常勤換算1以上	
事務	1(兼務)		1	

○ホームヘルパー制度の活用

※あじさいホーム同様

○健康管理

月二回程度フジモト新宿クリニックの訪問医療を活用し、定期的な健康管理に努めた。また、内科診療だけでなく、三浦歯科クリニックの訪問歯科も活用、山本りかアイクリニックの訪問眼科の実施も行い、健康管理の質の向上に努めた。医療的ケアが必要な入居者は、新宿区医療ケア体制支援事業を通じて訪問看護ステーションから看護師が派遣され、日常的に医療的ケアを実施できる体制を整備した。介助職員に対しても医療的ケアの知識、技術を習得する場を提供し、質の高い医療的ケアが提供できるように努めた。

○危機管理・防災訓練

入居者の安全を確保するため、所轄消防署の指導監督の下、ひまわりホームの消防計画を策定し、それに基づいて年2回防災訓練、地域の防災訓練への参加、消防署員を招いてのAED講習会を開催している(①平成28

年5月25日実施。AED講習会。参加者16名 ②平成28年8月28日実施。地域防災訓練。参加者4名 ③平成28年9月7日実施 避難訓練参加者6名 ④平成28年10月12日実施 池袋防災館見学、介助者12名参加 ⑤平成28年12月2日実施。防災訓練。参加者9名本所防災館) を行い、災害・緊急・救急時に備えた。28年度新たに自動火災通報器を導入した。使用方法の確認含め、避難訓練時の操作確認等を業者と連絡し把握する事に努めた。ハード面の理解(使用方法等)向上を職員間で共有するよう心掛けた。救急対応の強化と緊急時の連絡体制・介助者の動きの強化に努めた。

○余暇の充実・地域交流

地域の方々と信頼関係を構築するため、継続して様々な場に参加した。西新宿情報交流会(年6回)や社会福祉協議会の地区部会の参加を通して、地域の他施設や住民の方への理解を深めた。

	回数	内容
イベント	10	・読み聞かせ会・ぼれぼれダンス・アロママッサージ・クリスマス会 ・食事会・誕生日会・ハロウィンイベント・コンサート・節分イベント
年間外出	6	① 全体外出 ②数名に別れてのグループ外出
地域行事への参加	10	・中央公園盆踊り・熊野神社例大祭・地区防災訓練・児童館祭り・ ・コミュニティスポーツ大会・角筈地域センター祭り・打ち水会

○保護者・後見人・通所事業所との連携

入居者の多くが重度重複障害者であるため、生活に対する意見を聞く場として、代弁者である家族の方々との保護者会を開催した。年配の方も多く保護者会に出席できない親御さんには、議事録を送付し、日々の入居者の様子や取り組みの理解に努めた。日常的には、電話やメールなども利用し、情報共有を図った。

日中活動先とは、連絡帳や電話のほか、担当者会議や各医療科目の診察などにも同席し、情報収集に努めた。成年後見人を利用する利用者もいるため、後見人の方とも連絡を密にして連携を行なっている。28年度に後見制度を導入した利用者が、1年を迎えた。後見人の理解もあり、本人、家族、ホーム担当で話し合う機会も設けられている。声なき利用者の思いに寄り添える支援が円滑に行えるよう支援を行なった。

	回数	内容
父母懇談会	11	生活の様子報告・イベント報告・個別相談など

5・事業所「ぽけっと」

事業所「ぽけっと」は3つのユニットで構成している。

ユニット①グループホーム「ぽけっと」

ユニット②グループホーム「からふる」

ユニット③グループホーム「からふる」

事業所ぽけっと下記の職員配置で実施した。

職員配置：単位(人)

平成28年3月31日現在

	管理者	サービス 管理責任者	世話人	生活支援員	その他職員
常勤専従			5		
常勤兼務	1(サ責兼務)	1			

非常勤				23 常勤換算 6.7	1
合計	1	管理者兼務 (1)	5	6.7	1

各ユニットの状況報告は以下の通り。

ユニット① ぼけっと

平成28年度は、以下の方針を掲げ、事業を実施した。

【運営方針】

入居者一人ひとりのライフスタイルを尊重し、その人らしい暮らしができるように支援します。

- ・ほっと一息つき、自分らしさが出せる場所であるようにします。
- ・ご本人の意向が尊重されるよう支援します。言葉で伝えることが難しい方は、その支援方法を工夫します。
- ・ご家族と連絡を密に取り、適宜相談しながら一緒にご本人の生活を組み立てていきます。
- ・通所先、関連機関、行政、地域の方々との連携を強化し、地域生活をスムーズに送れるよう支援していきます。
- ・法人内の他グループホームとも連携を強化し情報を交換することで、支援レベルの向上、虐待防止等に努めます。
- ・共同生活を強制せず、各々がゆっくり休める環境作り、配慮に努めます。

事業名 : ぼけっと

実施事業 : 共同生活援助

定員 : 6名

事業所所在地 : 東京都新宿区百人町3-3-2

ユニット② からふる

平成28年度に事業を実施するにあたり、以下の方針を掲げ、事業を実施した。

【運営方針】

入居者が主体性を育み生活がおくれるような支援を目指します。

- ・自分で考え行動できるような環境づくりを行います。
- ・課題に向き合い、取り組めるように支援します。
- ・ご家族や通所先、関連機関、行政、地域の方々との連携を図り生活の質が向上できるように支援します。

事業名 : からふる

実施事業 : 共同生活援助 (グループホーム)

定員 : 7名

事業所所在地 : 東京都新宿区西新宿4-8-36

ユニット③ ぱれっと

平成28年度は、以下の方針を掲げ、事業を実施しました。

【運営方針】

入居者お一人おひとりが安心して自立した生活を送れるように支援してまいります。

- ・ご家族や通所先、関連機関、行政、地域の方々との連携を強化し、地域生活をスムーズに送れるよう支援してまいります。

- ・体調がより安定するよう、個々にあった細やかな支援が提供できるよう努めます。
- ・入居者、ご家族共にホームでの暮らしに対する安心感が高められるよう関係作りに努めます。

事業名 : ぱれっと
 実施事業 : 共同生活介護（グループホーム）
 定員 : 6名
 事業所所在地 : 東京都新宿区高田馬場3-43-8

サービスの質の向上にあたっては、下記の事項について、より強化を目指し実施した。

1. 個別支援計画の策定
2. 職員のスキルアップ
3. 非常勤職員との連携
4. 区内・法人内グループホームとの情報共有または連携強化
5. 関係機関とのつながり
6. 地域行事へ参加

1・個別支援計画の策定

個別支援計画を作成し、半年に1度、モニタリングを行い計画の見直しを行った。中・高齢層の入居者が多くなり、健康面・体力面への配慮がより重要となったため、年齢に応じた健康面への配慮を考慮した。また、通所先や余暇を健やかに活動できるよう、生活拠点としてなるべくストレスのないリラックスした生活が送れるよう見直しを図った。

2・職員のスキルアップ

高齢化や障害の重度化により、共同生活において他の入居者との関わりや支援方法がより複雑化しているため、研修などの機会を増やし、個々のスキルアップを図り、利用者支援の向上につなげた。障害理解や法制度についての幅広い知識を吸収し、専門知識や経験を活用した入居者の生活を支える基盤作りに努めた。また、入居者に一体的に支援ができるよう他のグループホームや介護派遣事業所も含め、勉強会や講習会を実施した。

3・非常勤職員との連携

職員が外部研修により得た知識を生活支援員全員が共有できる環境を整備し、新しい情報を支援に活かした。「働きやすい職場作り」を目指し、常勤職員の考えや意図が伝わるよう「申し送りファイル」を用いて、情報共有を図り、質の高い支援に努め、支援体制の統一を図った。またアップダウンのみならず、ボトムアップをしやすい環境を作るためにも、日々の業務の中で感じた感謝の気持ちを声や文字を通して伝え、提案や意見のしやすい雰囲気作りを目指した。

4・区内・法人内グループホームとの情報共有または連携強化

法人内のグループホーム職員が集うミーティングを月1回開催した。ここで各ホームでの課題を話し合うことで、ひとつのホームでは解決できない問題にも対応した。また、議事録ドリブン方式を採用して、会議参加者が共通認識のもと課題に向き合えるように工夫を凝らした。さらに一人一人の支援力を高めるため、障害種別や特性の違う支援を共有することで、臨機応変かつ柔軟な対応ができるように努めた。同一法人内で同じレベルのサービスが提供できるようチームケアの向上に努め、苦情や虐待防止への取り組みなど様々な情報を共有し解決に導けるように連携を強化した。

○危機管理

事故につながる可能性のある小さな出来事を「ひやりはっと」報告書に記載し、全員が閲覧できる場所に保管

し周知を図りました。「ひやりはっと」は一定期間で集計をし、対策を講じて事故を未然に防げるようにPDCAサイクルに則り体制を適宜整えた。

ぼけっと	12月 2日：本庁防災館のグループホーム合同職員防災研修（職員9名） 3月21日：ホーム内防災訓練夜間想定（入居者3名：介助者2名）	2回
からふる	12月 2日：本庁防災館のグループホーム合同職員防災研修（職員9名） 3月20日：ホーム内防災訓練夜間想定（入居者6名：介助者2名）	2回
ぱれっと	12月 2日：本庁防災館のグループホーム合同職員防災研修（職員9名） 3月15日：ホーム内避難訓練夜間想定（入居者6名：介助者2名）	2回

○イベント

ぼけっと	<ul style="list-style-type: none"> ・GW入居者ごとのミニ遠足・楽しい集い・スポーツの集い・地球感謝祭 ・ふしぎな友達プロジェクト・ふれあいフェスタ・センター祭 ・アミーゴフェスタ・クリスマス会・入居者誕生月に誕生会 など
からふる	<ul style="list-style-type: none"> ・コカ・コーラ工場見学・ふれあいフェスタ・センター祭・節分 ・クリスマス会・5周年記念食事会・ふれあいフェスタ・アトムフェスタ・あゆみ祭 ・アミーゴフェスタ・町会コンサート・町会お祭り・入居者誕生月に誕生会 など
ぱれっと	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の新年会・お花見・3周年記念外食（焼肉パーティ）・クリスマス会 ・日帰り外出（おふろの王様）・ふれあいフェスタ・センター祭・アミーゴフェスタ ・アトムフェスタ・クリスマス会・入居者誕生月に誕生会 など

6. 介護派遣事業所「ルクール」

平成28年度は、以下の方針を掲げ、事業を実施した。

【運営方針】

地域生活を送る利用者一人ひとりに日常的に必要な障害福祉サービスを継続的に提供し、QOLの向上を図り、心をこめた支援を実現します。

- ・日常生活における生活環境、障害程度にあった必要なサービスを提供し、日々生活力を高めて活きます。
- ・利用者の皆様が、安心して日常生活が送れるよう必要なサービスを関係機関と連携し、提供できるように心がけます。

●事業概要

○職員配置

職員を以下の通りに配置し、事業を実施した。

※平成28年3月末実績

部署	職 種	人数	内訳 (人)			
			常勤	非常勤	備考	
・居宅介護 ・重度 訪問介護 ・移動介護	管理者	1	1	0	すべての職員は、「居宅介護・重度訪問介護」、「移動支援事業」を兼務。 サービス提供責任者は管理者を兼務。 経理は、他事業を兼務。	
	サービス提供責任者	1	1	0		
	訪問 介護員	介護福祉士	10	0		10
		ヘルパー1級	1	0		1
		ヘルパー2級 初任者研修	27	0		27
	経理、庶務	1	1	0		
合計		40	2	38		

○実施方法

①サービス提供実績

サービスの提供に当たっては、本事業の対象者ならびに提供時間、評価指標等を以下のように定めた。

契約者数	営業実施日 営業実施時間	事業評価の指標等
23名 (内訳) 身体5名 知的19名	月曜～土曜 9:00～ 17:00 サービス実施は、 24時間365日	・サービス提供件数 ・サービス提供時間 ※実績は以下の表のとおり

※上記営業時間以外は、電話等により24時間常時連絡が可能な体制を確保。

② サービス提供内容

※平成28年度実績集計

事業	利用定員	提供時間
障害福祉サービス 居宅介護・重度訪問介護	身体介護5名(延べ人数56名) 家事援助4名(延べ人数40名) 通院介護8名(延べ人数38名) 重度訪問介護1名(延べ人数8名)	身体介護 2,504時間 家事援助 1,089.5時間 通院介護 107時間 重度訪問介護 37時間
地域生活支援事業 移動支援事業	22名 (延べ人数152名)	1,923.5時間